

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	山鹿市立大道小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	0	11	20
児童数	39	40	52	41	47	51	0	270	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた確かな学力の定着を図る学習をめざして
～算数科における少人数指導を中心に～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年・教科
全学年の算数
選択した理由
子どもの習熟度に差が出やすく、基礎・基本の積み重ねが大切になる教科であるため、平成13年度より、当該教科に関する実践(5,6年)があるため。

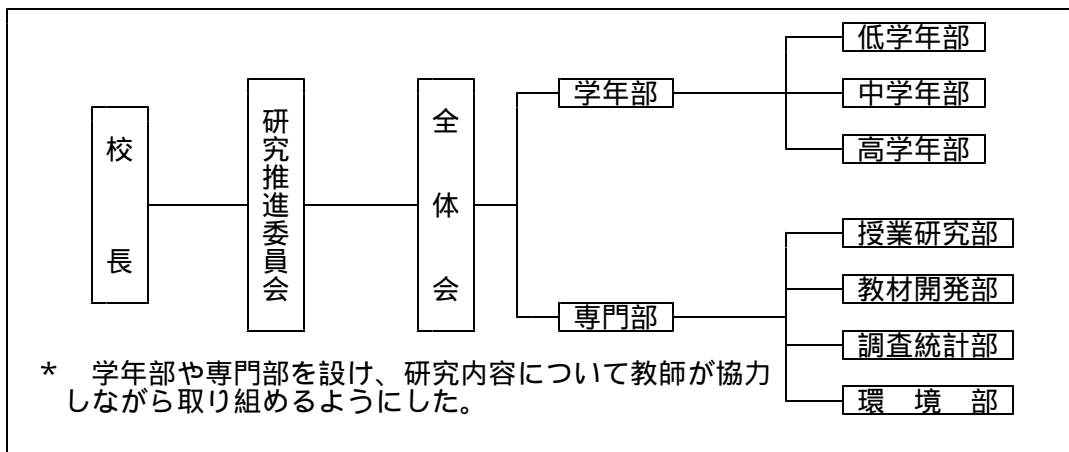
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「個に応じた確かな学力の定着を図る学習をめざして」 ～算数科での少人数授業・習熟度別指導を中心に～</p> <p>仮説 個に応じた指導形態や指導方法・指導内容の工夫をすれば、確かな学力が定着し、学習に対する意欲を高めることができる。</p> <p>研究内容・方法 (1) 個に応じた指導形態と指導方法の工夫 単元や領域に応じた指導形態の開発 グループの編成方法の工夫 学習過程や指導方法の改善 (2) 学習の習熟度に応じた指導内容の開発 習熟度に応じた教材の収集・開発 (3) 評価基準の作成と評価方法の工夫 客観的な評価基準の作成 評価方法の工夫 総括的評価の方法</p>
--------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ 「個に応じた確かな学力の定着を図る学習をめざして」 ～算数科における少人数指導を中心に～</p> <p>仮説 個に応じた指導形態・方法や指導内容の工夫をすれば、確かな学力が定着し、学習に対する意欲を高めることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導形態・指導方法の工夫 指導方法の用語の定義 指導方法ごとの学習過程と実践 少人数指導年間計画の作成</p> <p>(2) 学習の習熟度に応じた指導内容の開発 発展問題・補充問題のとらえ方 教材開発 指導計画の中での位置付け</p> <p>(3) 指導に生かす評価の工夫 形成的評価（1単位時間） 学習の評価（1単元） 学力の評価（学期毎）</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 「個に応じた基礎・基本の定着を図る学習をめざして」 ～算数科における少人数指導を中心に～</p> <p>仮説 個に応じた指導形態・方法や指導内容の工夫をすれば、確かな学力が定着し、学習に対する意欲を高めることができる。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導形態と指導方法 少人数指導年間計画の見直し 指導形態・指導方法の組み合わせ方の改善 基礎・基本の定着のための方策</p> <p>(2) 学習の習熟度に応じた指導内容の開発 発展的な学習・補充的な学習の授業過程と学習内容の開発 発展・補充問題の活用方法の工夫</p> <p>(3) 指導に生かす評価の工夫 関心・意欲・態度についての評価の工夫</p>
--------------------	--

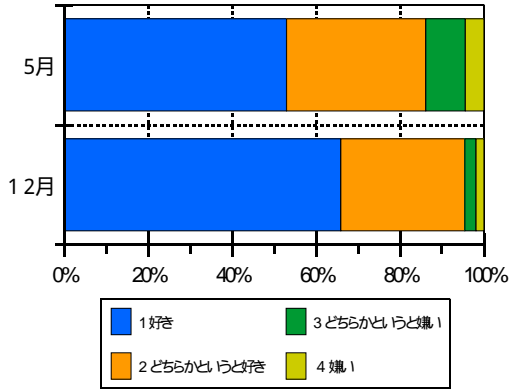
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

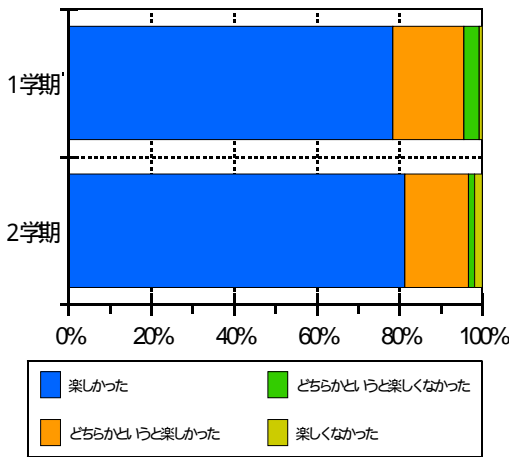
1. 研究成果

(1) 算数に対する児童の意識 (平成15年5月・12月実施)



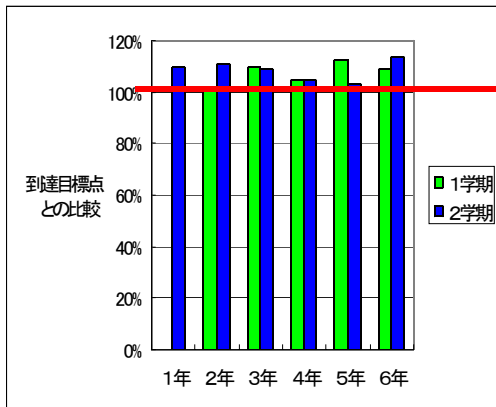
- 楽しいから。計算が好きだから。
- 難しい問題ができると楽しいから。
- 発表できるようになったから。
- 分かりやすく教えてくれるから。
- 生活に利用できるから。
- 最初はきらいだったけど、少人数になってすきになった。
- 計算が難しいから。算数が苦手だから。
- 間違えたらいやだから。
- 意味が分からなかったり、頭の中が混乱するから。

(2) 少人数指導に対する児童の意識 (平成15年7月・12月実施)

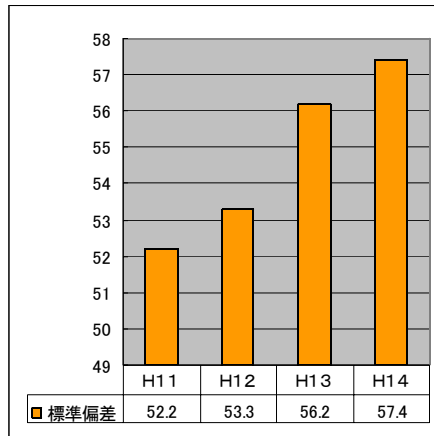


- 黒板も見えるし、話も聞きやすい。静かで集中しやすい。
- 発表がやりやすいし、あたりやすい。
- コースを選べたので、自分のペースで学習を進めることができる。
- 先生達が一人一人に教えてくれるのでとても分かりやすい。分からないときすぐに質問できる。友だちも教えてくれる。
- 算数をもっと好きになった。成績が伸びた。
- 先生をふやして、コースをふやしてほしい。
- コース分けを工夫してほしい。そうすればもっと楽しくなると思う。

(3) 単元末テストの結果



(4) 学力検査の結果



算数に対する児童の意識は「好き」「どちらかというところ好き」と答えた児童が1学期より9%ふえた。その理由として「発表できるようになったから」「分かるようになったから」が挙げられており、少人数指導との関連が見られる。

少人数指導に対する児童の意識は「どちらかというところ楽しかった」と答えた児童が1学期より3%減り、肯定的に受け止めている児童が97%に達した。その理由として授業に主体的に取り組みやすい点、コース選択ができる点が挙げられており、少人数指導のよさが受け入れられている。

単元末テストの結果は、市販テストの到達目標点を100とした場合の本校児童の学年平均点で比較したところ、全学年で100%を超えることができた。毎時間の評価を指導に生かしたことや、少人数指導で個に応じた対応ができたためだと考える。

学力検査の結果は、平成13・14年度に大きな伸びを示している。本校では平成13年度から少人数指導（5、6年）が始まっており、その成果が表れた結果であると考えられる。

2. 今後の課題

児童の学習意欲をより高めていくためには、コース設定について児童の要望をつかみ、反映できる点を生かしていく必要がある。

1時間かけて扱う「発展的な学習」「補充的な学習」の授業過程や学習内容を考えていく必要がある。

一斉指導やT・Tによる指導が適当な場合と、少人数指導が適当な場合を検討し、指導形態・指導方法を臨機応変に考えていく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

評価基準を活用した毎時間の児童の到達度把握（毎時間）
単元末テストの実施（単元毎）
定期的な学力検査の実施（年1回）
ゆうチャレンジの実施（年1回）
基礎計算力検査（年6回）
・基礎的な計算力の実態検査と指導後の変容をとらえる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会
（平成16年1月30日、県内外に本校の実践を公開し、示唆を得るため）
視察校等への研究実践の説明（平成15年度 10件）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無